

■建築計画部門—パネルディスカッション

■タイトル：創造都市時代における新しい公共空間の可能性

■資料：あり

■日時：9月10日（金）9:30～13:00

■会場：工学部 106 講義室

■司会 坂口大洋（東北大学）

■副司会 小林徹也（シアターワークショップ）

■記録 谷川大輔（谷川大輔建築設計事務所）

■1. 主旨説明

坂口大洋（東北大学）

■2. 主題解説

① 創造都市の理念と現代の潮流

佐々木雅幸（大阪市立大学）

② フェスティバルによる公共空間への戦略

相馬千秋（F/T）

③ コラボレートする空間のデザイン

古谷誠章（早稲田大学）

④ パブリックスペースの新たな実践

太田浩史（東京大学）

■3. 討論

コメンテータ

本杉省三（日本大学） 上西明（上西建築都市設計事務所）

■4. まとめ

大原一興（横浜国立大学）

企画主旨

地球環境や都市居住等の世界的な課題の中で、21世紀はまさに都市の時代となり縮小化する社会状況の我が国においては都市再生が急務の課題となっている。このパネルディスカッションでは内発的な発展を目指す都市再生手法として期待されている創造都市（Creative City）の実践とそれに伴う公共空間の変化に着目し、その問いに迫る。文化的な多様性を担保したネットワークにより都市全体のアクティビティーを高める手法は、新しい公共空間の創出を感じさせる。ボローニャ、ナント等の先行する欧米の実践例やC.ランドリー等の理論的背景を参照としながらも、横浜市、金沢市を先駆けとして理論的な導入から実践レベルに議論の焦点が移行しつつあり、理論から場の構築が問われている。例えば集積、コンバージョン、オルタナティブスペース等の多様な創造活動を支える公共空間の在り様は、従来の施設計画やマネジメント手法からの大きなシフトチェンジを意味する。また政策連携や政策統合は、文化施設を中心としながら学校や各種公共施設とともに制度を含めた公共空間の全体の再編を促す。

これらの可能性を検討し戦略を描くためには、理論と実践、空間とアクティビティーの双方をつなぐ議論が肝要である。そのため本PDでは、坂口による課題設定を踏まえ、創造都市研究の第一人者であり国内外の政策実践に詳しい佐々木、斬新な方法で都市空間を活用するフェスティバルトーキョーなどをディレクションする相馬、様々な建築プロジェクトにおいて市民とコラボレートする古谷、国内外の都市状況に詳しくパブリックスペースの活用を実践する太田の各専門領域のパイオニアである4氏に主題解説を頂く。討論ではこれまでの文化施設小委員会の議論を踏まえ、21世紀の建築・都市空間のヴィジョンを視野に入れ、創造都市を文化的なアクティビティーを中心とした公共空間再編の実践論として位置づけ、個々の専門領域からクロスオーバーする議論の場を目指す。